

## 宇都宮市立宝木小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分は勉強がよくなる方だと思う。」という肯定割合は59.9%で4.4ポイント高い。また、「自分には、よいところがあると思う。」という肯定割合は83.2%で、県平均よりも3.5ポイント高い。自己肯定感が高く、学習に対しても自信をもって取り組んでいる児童が多いことがうかがえる。学校生活において、児童のよさが発揮できるような場や役割を与えたり、児童の頑張りを認め、その過程にも目を向けて称賛したりしていく。また、教師からだけでなく、児童同士がお互いに頑張りを認め合えるような場を設けることで、さらに自己肯定感を高めることができると考える。これらのことを通して、児童が自信をもって学習したり学校生活を送ったりできるよう努めていく。

●「家で、学校の授業の復習をしている。」の肯定割合は54.3%で県平均の65.3%を大きく下回っている。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している。」の肯定割合は48.6%でこちらも県平均の64.8%より16.2ポイント低く、復習や間違い直しをする児童は少ないことが分かる。まずは、復習や間違い直しをすることの必要性和重要性を授業やテストを返すタイミングで繰り返し訴えていく。さらに、やり方を示したり他の児童のやり方を紹介したりするなどして、宿題や自主学習に出し、復習や間違い直しをする習慣を身に付けさせていきたい。

●平日の1日あたりの勉強時間が30分未満もしくは全くしないという質問の回答割合が20.5%だったのに対し、県平均は12.9%であった。また、学習に自分から進んで取り組んでいると回答した児童の肯定割合は68.2%に対し、県平均は75.1%であった。宝木小学校では5年生の家庭学習の時間は60分を目標としており、家庭学習では、宿題に加えて自主学習を行うことで60分を目指してほしいと考えている。「家で、学校の宿題をしている。」の肯定割合は96.3%と県平均と同等で、宿題はしっかり取り組んでいる児童が多い一方で、時間を意識したり自主学習をしたりしている児童はあまり多くないことが分かった。できた、分かったを実感できるような授業を目指し、学習が少しでも楽しい、もっとやってみたくて感じるような個別の支援にも力を入れて、前向きに学習に取り組めるような指導を続けていく。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」は71.9%、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」は66.4%、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」は71.0%であり、3つの項目すべてにおいて県平均を10ポイント以上下回った。「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定割合も県平均を10ポイント近く下回っていることから、児童の話し合い活動への苦手意識が高い。話し合い活動では、意図的に話し合い活動を取り入れ、話し合う場面を多く設定する。話し合いをする目的や内容を明確に示し、自分の考えを深めたり広げたりできるよう指導していく。合わせて、発言がしやすい学級の雰囲気づくりを日頃から行い、話し合いをしてよかったと思えるような指導を心掛けていく。授業の振り返りでは、振り返りの視点を示す教師の声掛けや振り返りをさせる場面を工夫し、書いたり発表したりすることを通して、今日の授業で自分が学んだことは何なのかを自覚できるようにしていく。振り返る活動も少しずつ数を増やしていき、自分の学びを振り返る意識を高めていきたい。書く活動では、書き方の例や型を示したり書く量を調整したりして、書くことへの抵抗感を下げ、書く場面も意図的に設定しながら書くことの習慣化を図っていく。話し合い活動と書く活動を関連付けたりその学習を振り返ったりして、学習の質を高め、児童の学習意欲の向上を目指していきたい。